

優良受注企業紹介

世界に誇る「メイド・イン・ジャパン」の品質を支える
プレス金型・精密部品を幅広く製作

株式会社 菅原精機

創業が昭和59年7月と伺っております。きっかけは

機械メーカーのサラリーマン当時に、サッシメーカーのYKK東北工場（宮城県）さんに大型設備を入れたりしながらお世話をいただいていた。その工場長さんに、会社を起こして協力会社になってくれないか、と頼まれたのがきっかけです。私が30歳の時でした。

工場長さんのお願いというのは、サッシの金型をつくって欲しかった

そうです。サッシ関係は、どうしても金型の刃物もたないところがあり、よく壊れてしまうんですね。すると生産ラインが止まってしまう。ですから、メンテナンスをふくめて金型全般を協力してほしいと。当時、東北工場はずっと拡大を続けていて、ものすごい規模になっていました。するとそこに入っている生産設備は膨大な量なんです。それが24時間稼働してるわけですから、当然壊れてくる。モデルチェンジもある。サッシ関係の金型関係をやる業者さんがとても少ないこともあり、メーカーさんは困っていた部分があったのです。

会社を起こすといっても設備とか資金とか、当然いろいろ必要になってきますね

悩みました。1カ月ほど時間をもらって、最終的にはやってみようと

決断しました。決心してからは、前沢の自宅内に会社を構え、とりあえず基本的な設備を設置しました。資金調達は当然、まだ実績もないものですから苦労しました。最初の設備はリース会社のご協力を得ました。人員の採用でも苦労しました。なかなか経験者を採用できず、結局は養成するかたちになり、私ともう一人で、ほとんど一からのスタートになりました。

軌道に乗せるまでは、どのくらいの期間があり、その間にはどういうことがありましたか

今でも軌道に乗ったという安心した気持ちはないのですが、最初の3年ぐらいはちょっと大変でした。お取引先はYKKさんの1社のみでサッシの金型を製作していたのですが、なかなか応えられるような量もできませんし、むずかしい形状の加工もできませんでした。最小限度の要望に応えながら、信用も築きつつ、毎年設備と人を増やしていきました。

その苦労の3年を過ぎてからは

ちょうど時代はバブル期に入りました。電機関係や車関係など、地元のメーカさんからの仕事が急激に増えました。お客様から、なんとか作ってくれと依頼される時代でした。しかし、無理な受注は避け、高い品質のものを作りつづけることにこだわっておりました。

そのバブルがはじけます

そうですね。バブルが終わるころには、どこのメーカーさんも縮小してきました。それに対応して今度は逆に、こちらからアプローチをやって、お客様が何を求めているのか、ニーズを探りながらこちら側の設備を選定し、そのニーズに対応できるようにわれわれの技術のレベルアップにも努めていきました。バブルがはじけたあとに大きなメーカーさんのリストラなどがあり、そのことでかえって優秀な技術者を中途採用できるようになりました。

そして現在に至るわけですが、主要生産品目は

民生用、つまり一般向け・家庭用のさまざまな製品の精密金型の設計製作を中心に、治工具、専用機、精密部品の設計製作まで幅広く手がけております。具体的な製品としてはヘッドホンステレオ（ウォークマン）、しぼりの技術が必要な世界的一流ブランド（シャネル）の口紅や香水の容器、電池ケース、SDカード、自動車のリモコンキー、カーナビ装置など。大きなものとしてはコピー機、プリンターなどOA製品の部品、自動車や新幹線のバッテリーの心臓部分の部品など。また、俗にいう超精密関係ですとコネクター端子。これは非常に高速で打ち抜くので、金型のブレが許されない。ですから精度



CNC3次元測定器を使つての品質検査。
全品検査の体制で製品の高い品質を保証している



画像測定器を使用して品質チェック

がものすごく高く、一個あたりの単価を下げるために高速加工も必要です。

御社の特徴、セールスポイントの ようなものは

プレス金型においては、形状的な面をいえば端子関係の金型からしぼり金型までほぼ全般、そして材質的な面ではどんな材料でも対応することができます。また、私どもの設備でできる範囲のものなら半導体業界など、幅広くなんでも要請にお応えしております。

こだわりはありますか

金型屋さんは、ふつうは量産をやりますが、当社はやっておりません。基本的にプレス金型に限定していません。量産よりアイテムの数を増やす方向でやっており、実際に広範囲の分野で多品種を手がけております。そして何より品質にこだわって注力しております。私たちの仕事は、すべてが品質ということに集約されると思います。それが最終的にはコスト競争力にもつながってくると思っています。

業界の動向と、それに対する御社の 対応は

メーカーさんの海外移管による現地生産化が、ますます強化されています。その中で当社が受注していくものは、技術的に東南アジアで対応

しきれない高いレベルのものと認識しています。また、国内においては、メーカーさんは集約化を進めております。これまでお付き合いのあった事業所さんも他の場所に移動していく可能性があります。さらに事業本部さんの方針で、アイテムがすぐ変わってしまうこともあります。ですから、幅広い分野のものに対応できる能力がなければなりません。これについては、すでにいろいろなものを手がけてまいりました。

最後に今後の目標や夢などは

実は当社では、まったく自社製品がないというわけではないんです。まだ公開できないんですが、共同で

開発を進めている製品もあります。それが一つと、お客様から『いい品物をつくってくれる』『これができるんだったら、ああいうものもできるんじゃないか』と、判断していただける会社であり続けることだと思います。つまり高い品質の製品をつくることのできるハイレベルな技術を持っていることが大事だと思います。そのため当社では、高い技術を継承していくために、各部署に50代、40代、30代という人員配置をしており、そこに現在は20代を投入しています。その高い意識と技術力で、われわれが活躍できる場所をますます増やし、地元貢献していけたらいいと思っています。



「量産よりも、一つひとつ高い品質の製品をつくり続けていくことにこだわりたい」菅原博幸社長

企業概要

創 業	昭和59年7月
代 表 者	菅原博幸
所 在 地	奥州市前沢区本杉136番地1
電 話 番 号	0197-56-7200
F A X 番 号	0197-56-7204
E - m a i l	ssseiki@rose.ocn.ne.jp
資 本 金	2000万円
従 業 員 数	26名

事業内容 民生品、OA関連、化粧品、自動車、サッシ関連等のプレス金型を中心に、治工具および精密部品の製作

主要取引先 YKK、トステム、日立メテアエレクトロニクス、小田原エンジニアリングほか多数

設備・機械 CNC3次元測定器、画像測定器、マシニングセンター、NCフライス盤、ワイヤー放電加工機、放電加工機、細穴放電加工機、恒温室、ターレットフライス盤、横フライス盤、縦フライス盤、平面研削盤、成形研削盤、旋盤、電気炉、パワープレス、設計CAD、2.5次元CAD/CAM、3次元CAD/CAM、2次元CAD/CAM、工具顕微鏡、精密万能投影機、ブロックゲージ〜ピンゲージ